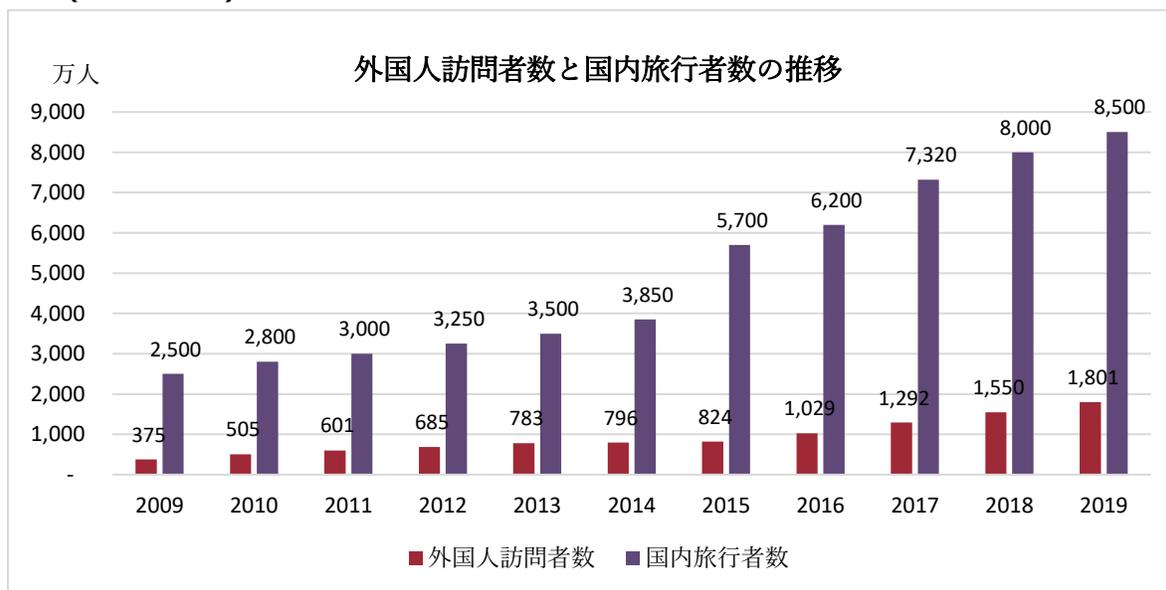


2020年7月13日

## 日本人旅行者も注目するベトナム観光；コロナ禍の影響は？

ベトナム観光総局によると、2019年にベトナムを訪れた日本人は約95万2千人で、初めて年間90万人の大台を突破しました。2018年は約82万6千人でしたので、前年比の伸び率は15.3%と過去10年で最大となりました。日本人旅行者の脚光を浴びるベトナムですが、ベトナム観光産業の現状はどうでしょうか。

ベトナム経済が本格的な発展の緒に就いたのは、ドイモイ政策が採択された1986年ですが、観光部門も、経済発展と呼応する形で90年代以降目覚ましい発展を続けています。2019年の外国人訪問者は約1,800万人、国内観光客は約8,500万人で、観光収入は755兆ドン（約3兆4,957億円）に達しました。ベトナム統計総局のデータによると、2009年の外国人訪問者は約375万人でしたので、その急速な拡大振りがうかがわれます。国連世界観光機関(UNWTO)の試算によれば、ベトナムの観光部門は年率16.2%で成長すると予想



出所：ベトナム統計総局、ベトナム観光総局

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

ベトナム通信 ～当社グループ現地スタッフによる最新情報～

されています。この成長率は、同機関の調査対象の 159 カ国中第 7 位で、東南アジアでは 2 番目に高い数値です。

具体的な観光地をおさらいしておきましょう。南部観光の目玉はやはりホーチミン市です。フランス統治時代の名残を残す建造物が点在する歴史的町並みは、観光客を惹きつけます。南部では、避暑地として知られるダラット、フーコック島、ニャチャン、ファンティットなどのビーチリゾート地が有名です。北部地域観光の中心地は首都ハノイで、その歴史・文化施設の豊富さはホーチミン市を凌ぐほどです。北部地域で忘れてはならないのはハロン湾で、今ではベトナムを代表する観光地の一つです。中部地域はアクセスがやや不便なこともあり、外国人旅行者数は南北両地域に比べてやや劣ります。代表的な観光地は、ダナン市、フエ王宮群、ホイアンの町並み、ミーソン遺跡群などがあります。



当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



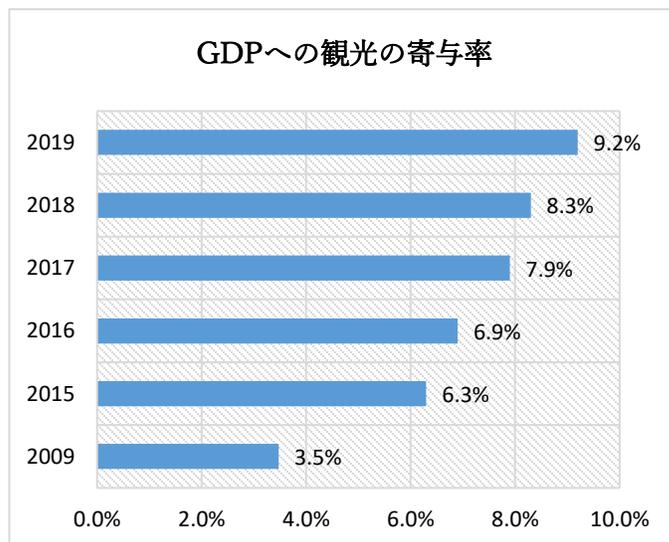
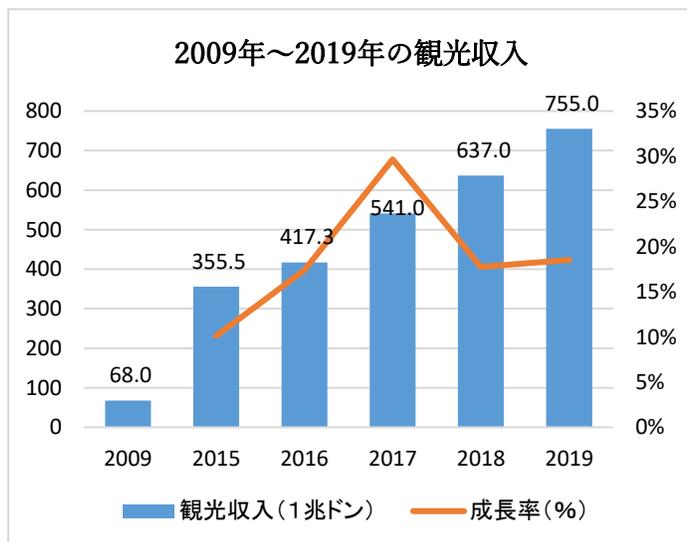
**ベトナムの観光地の動画**：出所：ベトナム文化スポーツ観光省

東南アジア地域で、観光立国として確実に頭角を現してきているベトナムですが、波及効果を含めた観光収入は、2009年から2019年の10年間では約11.1倍となり、観光のGDPへの寄与率も着実に増加しています。2019年の寄与率は9.2%に達し、2009年に比べ2.62倍となりました。また、世界旅行ツーリズム協議会（World Travel & Tourism Council）によると、2019年にベトナム旅行および観光は全雇用の約9.1%を創出しました。今後は、文化や自然環境の保護と観光開発をいかに両立するかがポイントとなるでしょう。アジア地域の一部ではアジアらしさが失われつつあると言われていますが、ベトナムにはアジアの風情や手付かずの自然が豊富に残されている点は、同国の観光潜在力を高める意味で注目されます。

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

ベトナム通信 ～当社グループ現地スタッフによる最新情報～

2020 年はコロナ禍の影響で観光客は他国と同様に激減しましたが、いち早く感染症の抑え込みに成功したこともあり、ベトナム観光総局は年末にかけて観光が回復すると見えています。政府も国内観光を促進する方針を示しており、「ベトナム人は国内旅行を」と呼ばれるキャンペーンが6月から12月末まで実施されます。全国各地への旅行を奨励するため、観光地の広告・宣伝の推進、地方での観光施設の早期再開、各種旅行刺激策が実施されています。その上、“Vietnam NOW-Safety and Smiling”というキャンペーンも企画しており、海外旅行者も対象にした優待パッケージを盛り込んだ観光刺激策を打ち出す予定です（対象国でのコロナ収束が前提）。また中長期的には、医療観光や長期滞在型観光といった新しい形態の観光に対する取り込みにも期待が集まっています。



出所：ベトナム観光総局

【参考資料：ベトナム統計総局、ベトナム観光総局、世界旅行ツーリズム協議会、本邦国際協力銀行の各資料・

HP】【写真提供：JVRC】

<http://www.capital-am.co.jp>

以上

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。